

平成9年度（1997年度）

1. シンポジウム

実施月日	テーマ・演題	コーディネータ・講師
平成9年 10月13日 (月) 参加者 58名	『ウイルスと発癌』 — 演題 — ・ウイルス発癌序論 ・EBウイルスとヒト癌 ・子宮頸癌関連パピローマウイルス群のE6蛋白に特異的なAPC蛋白類似活性 ・HBVX蛋白質によるp53機能の阻害 ・C型肝炎ウイルスと肝発癌 ・HTLV-1による発癌機構 ・成人T白血病の予防：HTLV-1母乳感染予防による試み	京都大学ウイルス研究所長 教授 伊藤 嘉明 — 講師 — 京都大学ウイルス研究所長 教授 伊藤 嘉明 北海道大学医学部 教授 高田 賢蔵 大阪大学微生物病研究会観音寺研究所 常勤顧問 石橋 正英 癌研究会癌研究所 部長 小池 克郎 京都大学ウイルス研究所 教授 下遠野邦忠 東北大学大学院医学系研究科 教授 菅村 和夫 鳥取大学医学部 教授 日野 茂男

2. セミナー

実施月日	テーマ・演題	コーディネータ・講師
平成9年 7月18日 (金) 参加者 181名	『細胞の老化と不死化 —染色体・テロメアを中心に—』 — 演題 — ・はじめに—細胞の老化と不死化研究の動向— ・細胞の老化と不死化に関わる遺伝子群 ・細胞の老化と不死化の分子メカニズム—転写抑制性核内構造の関与— ・遺伝性早老症ウェルナー症の原因遺伝子と作用メカニズム ・減数分裂期の染色体構造とテロメア ・哺乳類テロメラーゼ蛋白質TLP1 ・ヒト癌とテロメア・テロメラーゼ	広島大学医学部 教授 井出 利憲 — 講師 — 広島大学医学部 教授 井出 利憲 鳥取大学医学部 教授 押村 光雄 慶應義塾大学医学部 助手 今井眞一郎 (株)エイジーン研究所 主任研究員 杉本 正信 郵政省通信総合研究所 室長 平岡 泰 東京工業大学生命理工学部 助教授 石川 冬木 広島大学医学部 講師 檜山 英三
9月26日 (金) 参加者 73名	ブレインサイエンスシリーズ第10回 『損傷神経の再生と機能修復』 — 演題 — ・損傷神経の生存・再生に関与する遺伝子群 ・脳循環代謝制御と生物の生存戦略 ・神経移植による脳機能の再建 ・神経幹細胞移植による損傷神経回路網再建の試み ・神経損傷における脳温変化とその治療法—長期低体温療法と補充療法による脳蘇生法—	大阪大学医学部 教授 遠山 正彌 旭川医科大学 教授 木山 博資 — 講師 — 旭川医科大学 教授 木山 博資 大阪市立大学医学部 教授 井上 正康 名古屋市立大学医学部 教授 西野 仁雄 慶応義塾大学医学部 助手 内田 耕一 日本大学医学部 教授 林 成之
平成10年 1月21日 (水) 参加者 79名	『Vascular Biology—シグナル伝達の分子医学—』 — 演題 — ・VEGF受容体と血管新生 ・セリンスレオニンキナーゼ型レセプターのシグナル伝達分子Smad ・平滑筋細胞形質変換の分子機構 ・NOSの構造と機能 ・血管新生の分子病理 ・血管攣縮とミオシン軽鎖リン酸化	名古屋大学医学部 教授 日高 弘義 — 講師 — 東京大学医科学研究所 教授 渋谷 正史 (財)癌研究会癌研究所 部長 宮園 浩平 群馬大学医学部 教授 永井 良三 名古屋大学医学部 講師 渡辺 泰男 名古屋大学医学部 教授 日高 弘義 九州大学医学部 教授 居石 克夫 名古屋大学医学部 教授 鈴木 善男
2月17日 (火)	『蛋白質の3次元構造解析の現状と未来 —Structural Biology—』	生物分子工学研究所 部門長 森川 耿右

<p>参加者 91名</p>	<p>－ 演題 －</p> <ul style="list-style-type: none"> ・構造生物学に期待されるもの ・呼吸酸素の構造とSPring-8による呼吸反応研究の展望 ・電子顕微鏡による構造生物学（膜タンパク質研究）の現状と未来 ・遺伝伝達タンパク質の構造から観たシグナル伝達の普遍性と多様性 ・細胞内タンパク質の構造に基づいた情報伝達機構 ・転写調節機能をもつ原がん遺伝子産物の立体構造と機能 ・新しいタンパク質-DNA認識機構：ワトソン・クリック型塩基対の破壊 	<p>－ 講師 －</p> <p>生物分子工学研究所 部門長 森川 耿右 大阪大学蛋白質研究所 教授 月原 富武</p> <p>京都大学大学院理学研究科 教授 藤吉 好則</p> <p>奈良先端科学技術大学院大学教授 箱嶋 敏雄</p> <p>東京臨床医学総合研究所 部長 稲垣 冬彦</p> <p>横浜市立大学大学院総合理学研究科 教授 西村 善文 生物分子工学研究所 部門長 森川 耿右</p>
--------------------	---	---

3. 技術講習会

開催日	テーマ・演題	後援企業 & コーディネータ、講師
<p>第10回 平成9年 4月17日 参加者 26名</p>	<p>『細胞内機能研究のための最新技術』 － 共焦点顕微鏡とBIACOREを用いた応用－</p> <p>－ 演題 －</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共焦点顕微鏡における3次元立体再生構築法 ・共焦点顕微鏡による経時変化測定（カルシウムイオンなど） ・BIACORE を用いた生体分子の特異的相互作用の検出 	<p>メリディアンインスツルメンツ ファーイースト(株) ファルマシアバイオテック(株)</p> <p>－ 講師 － メリディアンインスツルメンツ ファーイースト(株) 井野 正子、藤下まり子 ファルマシアバイオテック(株) 稲川 淳一</p>
<p>第11回 6月26日 参加者 31名</p>	<p>『等電点差異に基づくタンパク質分離方法』 － 演題 －</p> <ul style="list-style-type: none"> ・固定化pHグラジエントゲル(Immobiline)9+66を用いた等電点電気泳動の原理と応用 ・pH勾配によりタンパク質を分離するカラムクロマトグラフィー（クロマトフォーカシング法） ・サンプル分取を目的とした等電点電気泳動法 	<p>ファルマシアバイオテック(株)</p> <p>－ 講師 － ファルマシアバイオテック(株) 宮崎 昭、浜野 真城、早野 雅子</p>
<p>第12回 7月22日 23日 (7/22:13~15) (7/23:10~15) 参加者 33名</p>	<p>『生物学的親和性を利用した分離分析技術』 － 演題 －</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アフィニティーカラムの作成とカップリングの手法 ・ウェスタンブロットング並びに検出の方法 ・BIACORE を用いた分子間相互作用解析の原理 ・実習：簡易型アフィニティーカラムへのタンパク質のカップリング ・タンパク質精製におけるアフィニティーカラムの応用 ・デモンストレーション：BIACORE を用いた分子間アフィニティーの解析 ・ランタノイド標識を用いた蛍光イムノアッセイ系の作成評価ならびに応用例 ・実習：アフィニティーカラムの評価 ・アフィニティー解析の応用例と将来性 ・質疑応答 	<p>ファルマシアバイオテック(株)</p> <p>－ 講師 － ファルマシアバイオテック(株) 浜野 真城、政岡 佳子、宮崎 昭 阿部 幸彦、岡崎 一生</p>
<p>第13回 8月18日 参加者 30名</p>	<p>『ヒト染色体解析とFISH 法』 － 演題 －</p> <ul style="list-style-type: none"> ・FISH 法による染色体マッピングとその応用（CGH総論） ・CGH（Comparative genomic hybridization）の技術解説 ・キット品を用いたマルチカラー FISHの検出 ・蛍光顕微鏡と画像解析装置 QUIPS XLを用い 	<p>藤沢薬品工業(株)医療関連事業部</p> <p>－ 講師 － 東京大学医科学研究所ヒトゲノム解析センター 助教授 稲澤 譲治 藤沢薬品工業(株) 医療関連事業部 前川 雅彦、新宅 香織</p>

	てのデモンストレーション：実施および質疑応答	
第14回 10月15日 16日 参加者 35名	『一次構造解析を目的としたタンパク質の微量分離手法』 — 演題 — ・タンパク質の微量精製および関連する解析技術 ・固定化pHゲルを用いた二次元電気泳動 ・デモンストレーション：二次元電気泳動の実際 ・一次元構造解析用サンプルの調製を目的とした電気泳動法 ・小スケールクロマトグラフィーを用いた ng レベルタンパク質の調製 ・デモンストレーション：In gel digestionによる泳動ゲルからの peptide の抽出と分離 ・サンプル分取を目的とした電気泳動と応用例 ・泳動後画像の解析 ・デモンストレーション：泳動結果の画像解析質疑応答	ファルマシアバイオテック(株) — 講師 — ファルマシアバイオテック(株) 政岡 佳子、宮崎 昭、早野 雅子

4. 《新適塾事業》

(1) 千里神経懇話会

実施月日	テーマ・演題	オーガナイザー & 講師
第19回 平成9年 5月26日 参加者 80名	『ストレスと遺伝子発現（その2）』 — 演題 — ・ストレスに応答する細胞群、遺伝子群の 検索—心臓と消化管における検討— ・ストレスによる胃における遺伝子発現の変化 —ポリアミン代謝を中心に— ・ORP150 のその後 ・感染ストレスを脳はどのようにして知か？ —脳血管内皮細胞シクロオキシゲナーゼの役割—	和歌山県立医科大学第2解剖 仙波恵美子 — 講師 — 和歌山県立医科大学第2解剖 上山 敬司、雑賀みさ子 大阪市立大学医学部第2生化 矢野 善久、大谷 周造 大阪市立大学医学部第1病理 堀 高明、福島 昭治 大阪大学医学部第2解剖 小川 智 科学技術振興事業団 大阪イノベーション研究所 松村 潔
第20回 6月24日 参加者 75名	『環境変化に対する細胞のストレス応答』 — 演題 — ・環境変化による血管内皮細胞機能の修飾とマクロファージ・血管内皮細胞関連 ・低酸素によって誘導される神経細胞死のメカニズムの解析 ・ORP150 の発現は低酸素による細胞死を抑制しうるか ・新規ストレス蛋白ORP150 とRA410の脳虚血モデルにおける発現	大阪大学大学院医学研究科機能形態学講座（第2解剖） 小川 智 — 講師 — 小川 智 大阪大学医学部解剖学第2教室 玉谷実智夫 大阪大学医学部解剖学第2教室 小澤健太郎 兵庫医科大学第5内科 松山 知弘
第21回 7月11日 参加者 50名	『感覚器』 — 演題 — ・塩味受容体候補遺伝子の単離と解析 ・中枢神経系に発現する olfactoryreceptorファミリーメンバーのクローニング ・視細胞に特異的に発現する新規アクトン束形成蛋白 retinal fascin の単離 ・Odorant-BindingProtein:Perireceptor vents in Olfaction	大阪大学医学部第二解剖 島田 昌一 — 講師 — 大阪大学医学部第二解剖 鶴川 眞也 大阪大学医学部第二解剖 井上 浄 大阪大学医学部第二解剖・眼科 西信 良嗣 関西労災病院耳鼻咽喉科 大野 浩司

<p>第22回 9月19日 参加者 69名</p>	<p>『環境因子と脳発達』</p> <p>— 演題 —</p> <ul style="list-style-type: none"> 環境因子と脳発達 — インプリケーションと小児自閉症について — 脳発達シナプス可塑性の分子・神経基盤 発達障害の臨床症状とモノアミン神経系 	<p>大阪バイオサイエンス研究所神経科学 渡辺 恭良</p> <p>— 講師 —</p> <p>渡辺 恭良</p> <p>大阪バイオサイエンス研究所神経科学 今村 一之</p> <p>瀬川小児神経学クリニック 瀬川 昌也</p>
<p>第23回 10月9日 参加者 73名</p>	<p>『細胞ダイナミズムとプロテアーゼ』</p> <p>— 演題 —</p> <ul style="list-style-type: none"> 視覚野可塑性とプロテアーゼ 脳に存在する新しいセリンプロテアーゼのクローニングと発現 神経可塑性関連セリンプロテアーゼ、ニューロプシンの脳内発現 マウスでのキンドリングにおけるニューロプシンの作用 	<p>奈良先端科学技術大学院大学・細胞構造 吉田 成孝</p> <p>— 講師 —</p> <p>大阪バイオサイエンス研究所神経科学 今村 一之</p> <p>京都府立医大・老化研・細胞生物 山口 希 吉田 成孝</p> <p>鹿児島大学医学部解剖学第一 百田 芳春</p>
<p>第24回 11月25日 参加者 59名</p>	<p>『侵害情報伝達とその調節機構』</p> <p>— 演題 —</p> <ul style="list-style-type: none"> Mechanisms of Neuropathic Pain a) モデルラットにおける遺伝子発現の变化 b) 脊髄・後索核の興奮性の変化—c-fosによる解析— c) 後索内側毛帯系の関与—Single Unit Recordingによる解析— Modulation of neuropeptide expression in spinal dorsal horn a) 全身麻酔薬による調節 b) 漢方薬による変化 c) 脊髄損傷と神経ペプチド 	<p>兵庫医科大学第二解剖 野口 光一</p> <p>— 講師 —</p> <p>野口 光一</p> <p>大阪大学医学部麻酔科 福岡 哲男</p> <p>兵庫医科大学第二解剖 徳永 敦</p> <p>兵庫医科大学第二解剖 三木 健司</p> <p>兵庫医科大学第二解剖・麻酔科 谷本 賢明</p> <p>兵庫医科大学第二解剖 戴 毅</p> <p>兵庫医科大学第二解剖・整形外科 橘 俊哉</p>
<p>第25回 12月15日 参加者 43名</p>	<p>『脳の発生・神経回路網形成の分子機構』</p> <p>— 演題 —</p> <ul style="list-style-type: none"> OCAM: 嗅覚系の選択的軸索投射に関与する新規細胞接着分子 中枢カテコールアミン神経系のネットワーク形成と高次脳機能 視床皮質投射における軸索伸長抑制と枝分かれ Development of feature maps in visual cortex: A role for activity? 	<p>大阪大学大学院基礎工学研究科 脳科学講座 村上富士夫</p> <p>— 講師 —</p> <p>大阪医科大学・医化学、 大阪バイオサイエンス研究所・神経科学 吉原 良浩</p> <p>奈良先端科学技術大学院大学 小林 和人</p> <p>大阪大学大学院基礎工学研究科 山本 亘彦</p> <p>University of California SF (日本学術振興会外国人特別研究員) Edward S. Ruthazer</p>
<p>第26回 平成10年 1月19日 参加者 47名</p>	<p>『化学感覚研究の最前線』</p> <p>— 演題 —</p> <ul style="list-style-type: none"> 味覚トランスダクションにおいてcNMPは主役か? 嗅細胞における匂い受容: G蛋白質介在性情報変換機構 味覚記憶の形成・保持に関わる扁桃体 大脳皮質味覚野の神経機構 化学感覚の非侵襲計測 — 嗅覚脳磁図の計測と解析 — 	<p>大阪大学人間科学部行動生理学講座 山本 隆</p> <p>— 講師 —</p> <p>京都大学食糧科学研究所 林 由佳子</p> <p>大阪大学大学院理学研究科生物科学専攻 科国立生理学研究科 倉橋 隆</p> <p>大阪大学人間科学部行動生理学講座 八十島安伸</p> <p>工業技術院電子技術総合研究所 大阪ライフエレクトロニクス研究 センター 外池 光雄</p>

第27回 2月16日 参加者 49名	『神経分化と脳形成』 — 演題 — ・教育講演 ・SRKラット：新しいリーラー類似動物 ・生後脳の顆粒細胞系譜に特異的に発現する新規zinc finger型遺伝子の発現解析 ・ショウジョウバエの分子遺伝学的解析手法を用いた神経分化とアポトーシスの制御機構の研究 ・胎児期神経上皮に発現する因子の検索とその機能解析の試み	福井医科大学解剖学(2) 佐藤 真 — 講師 — 神戸大学医学部第一解剖学 寺島 俊雄 奈良先端科学技術大学院大学 バイオサイエンス科 松本 和政 大阪大学医学部 バイオメディカル 研究センター神経解剖学 澤本 和延 大阪市立大学医学部解剖学第一 米田 託成 福井医科大学解剖学(2) 佐藤 真
-----------------------------	---	--

(2) 21世紀の薬箱

開催日	テーマ・演題	世話人・講師
第15回 平成9年 6月4日 参加者51名	— テーマ・演題 — 『生殖工学の発展と常識の崩壊』	大阪大学薬学部 教授 那須 正夫 — 講師 — 大阪大学微生物病研究所 感染動物 実験施設 助教授 岡部 勝
第16回 6月23日 参加者62名	『酸化ストレスと病態』 — 演題 — ・脂質過酸化の防禦と酸化ビタミン ・薬物や異物の代謝と酸化ストレス ・酸化ストレスとチオレドキシン	大阪大学薬学部 教授 馬場 明道 — 講師 — 神戸学院大学薬学部 生物化学 助手 高橋 隆幸 大阪大学薬学部 生物薬品化学 助手 寺田 知行 大阪大学薬学部 薬品製造工学 教授 溝口 正
第17回 7月30日 参加者59名	新しい治療戦略(6) 『医療の現場からの提案：臨床に根ざした 次世代の薬物治療戦略』 — 演題 — ・薬剤適性使用を目指した薬物体内動態の個人 差克服 — 遺伝子解析はどこまで利用出来るか — ・精神分裂病陰性症状に対する薬物治療戦略	大阪大学薬学部 教授 真弓 忠範 — 講師 — 神戸大学医学部附属病院薬剤部 奥村 勝彦 名古屋大学医学部附属病院薬剤部 鍋島 俊隆
第18回 10月21日 参加者23名	— テーマ・演題 — 『ヒトパピローマウイルスによる細胞がん 化機構』	大阪大学薬学部 教授 那須 正夫 — 講師 — 大阪大学微生物病研究所 腫瘍ウイルス 分野 助教授 湯津堂満寿男
第19回 12月8日 参加者36名	『ヒスタミン研究の最前線』 — 演題 — ・ヒスタミンH1受容体の構造と機能の分子 生物学 ・脳内ヒスタミンの薬理	大阪大学薬学部 教授 馬場 明道 — 講師 — 大阪大学医学部 助教授 福井 裕行 大阪大学医学部保健学科教授 大和谷 厚

第20回 12月22日 参加者40名	新しい治療戦略(7) 『医用高分子素材の探究とその臨床応用への可能性』 — 演題 — ・循環器系組織の臓器工学的再構築 ・合成高分子の活性とハイブリッド生理活性物質への応用	大阪大学薬学部 教授 真弓 忠範 — 講師 — 国立循環器病センター研究所 松田 武久 通商産業省工業技術院生命工学研究所 平野 隆
第21回 平成10年 2月23日 参加者37名	『大腸菌O157をめぐる最近の動向』 — 演題 — ・in situ PCR法により求められた河川水中の大腸菌O157の現存量 ・腸管出血性大腸菌の生態学的、疫学的調査研究と問題点	大阪大学薬学部 教授 那須 正夫 — 講師 — 大阪大学薬学部衛生化学講座 谷 佳津治 大阪府立公衆衛生研究所公衆衛生部 小林 一寛
第22回 3月16日 参加者50名	『細胞の生と死のシグナル伝達』 — 演題 — ・MAPキナーゼとサイクリン依存性キナーゼの標的タンパク質の探索 ・Fasを介したアポトーシスの分子機構	大阪大学薬学部 教授 馬場 明道 — 講師 — 大阪大学医学部 助教授 福永理己郎 大阪大学医学部 助手 江成 政人

5. 千里ライサイエンス市民公開講座「成人病シリーズ」

コーディネータ：国立循環器病センター名誉総長 尾前 照雄氏

開催日	テーマ・演題	座長・講師
第19回 平成9年 7月19日 参加者 126名	『循環器病制圧の新しい戦略』 — 演題 — ・開催にあたって ・生活習慣病としての循環器病 ・患者さんは胎児-出生前医学の最前線- ・脳卒中が起こったらすぐ入院 -予防とQOLの向上を目指した脳卒中協会の役割-	尾前 照雄、岡田 善雄、田口 数雄 — 講師 — 岡田 善雄 滋賀医科大学 教授 上島 弘嗣 国立循環器病センター 医長 千葉 喜英 国立循環器病センター病 院長 山口 武典
第20回 11月15日 参加者 60名	『歯と健康』 — 演題 — ・開催に当たって ・歯周病とライフスタイル ・口の健康 -口腔腫瘍を中心として- ・歯と食事と心身面の健康	尾前 照雄、岡田 善雄、田口 数雄 — 講師 — 岡田 善雄 大阪大学歯学部 教授 零石 聰 大阪大学歯学部 教授 作田 正義 福岡大学医学部 教授 都 温彦
第21回 平成10年 3月14日 参加者 150名	『骨・関節の病気と運動障害のリハビリテーション』 — 演題 — ・開催に当たって ・家庭で出来る骨・関節疾患の運動療法 ・脳卒中による運動障害のリハビリテーション ・骨の健康管理 -骨粗鬆症 -	尾前 照雄、岡田 善雄、田口 数雄 — 講師 — 岡田 善雄 大阪労災病院 理学療法士 高関有紀子 伊豆菰山温泉病院 院長 長谷川恒雄 鳥取大学医学部 教授 山本 吉蔵

6. 千里ライフサイエンスフォーラム

開催月日	テーマ・講演	講師名(所属)
57 平成9年 4月23日 参加者34名	『空海の思想』～密教史における位置～	国立民族学博物館 教授 立川 武蔵

58 5月23日 参加者31名	『ヒトはどんな環境からも守られている』	(財)M・P・スクール 医学研究センター理事長 京都府立医科大学 名誉教授 岸田綱太郎
59 6月25日 参加者41名	『良性肥満と悪性肥満』	大阪大学医学部内科学第二 教授 松澤 佑次
60 7月25日 参加者35名	『ほんとに薬のせいなのか』	藤沢薬品工業株式会社 会長 製薬工業協会 会長 藤沢友吉郎
61 8月21日 参加者20名	『複雑系・複雑現象・エントロピー』 [KRFとのジョイントフォーラム]	大阪大学大学院工学研究科電子情報 エネルギー工学専攻 教授 長谷川 晃
62 9月19日 参加者32名	『法廷の情景』	前神戸大学長、弁護士 梅田総合法律事務所 鈴木 正裕
63 10月24日 参加者30名	『バイオ食品と安全性の考え方』	京都大学食糧科学研究所 教授 木村 光
64 11月21日 参加者28名	『緒方洪庵と適塾』～その現代的意義～	大阪大学名誉教授 適塾記念会 理事 梅溪 昇
65 12月11日 参加者39名	『伝統食は長寿の支え』～‘寝たきり’や‘ 痴呆’にならないために～	京都大学大学院人間・環境学研究科 教授 家森 幸男
66 平成10年 1月23日 参加者29名	『生命科学について考える』	国立循環器病センター 名誉総長 尾前 照雄
67 2月20日 参加者38名	『脳の不思議』	大阪大学医学部 教授 遠山 正彌
68 3月18日 参加者26名	『規制緩和・行政改革と弱者保護』	大阪大学社会経済研究所 教授 八田 達夫

6. 千里ネイチャー・カレッジ

開催日	テーマ	参加者	
		生徒	関係者
第1回 7月12日 (土)	『オリエンテーション』	38名	20名
第2回 7月24日 (木)	『サルと昆虫と地層の観察』	38名	18名
第3回 11月8日 (土)	『サルの観察と修了式』	37名	20名